

## 第4学年1組

## 音楽科学習指導案

指導者 仲村 純子

### 1 題材名 日本の音階で旋律をつくろう

教材名 「ひらいたひらいた」「かごめかごめ」「神田囃子」「親子三代千葉おどり」

### 2 題材について

#### (1) 題材観

本題材は、学習指導要領において以下に関する内容である。

A	表現	(3) 音楽づくり	ア	いろいろな音の響きやその組み合わせを楽しみ、様々な発想をもって即興的に表現すること
			イ	音を音楽に構成する過程を大切にしながら、音楽の仕組みを生かし、思いや意図をもって音楽をつくること
	[共通事項]	(1) ア	(ア)	音色, リズム, 旋律, 音階, 拍の流れ
			(イ)	問いと答え, 反復
			イ	4分音符, 8分音符, 2分音符, 付点4分音符, 4分休符

本題材では、わらべうたや郷土の音楽で使われてきた日本の音階を感じ取りながら簡単な旋律をつくる活動を通して、思いや意図をもって楽しみながらまとまりのある音楽をつくることができるようにすることをねらいとしている。学習指導要領改訂の趣旨の中にあるように我が国や郷土の伝統音楽に対する理解を基盤として、我が国の音楽文化に愛着をもてるようにしていく。

児童は3年の学習で、決められた2小節のリズムに3音(ラドレ)をあてはめ日本の音階の旋律をつくる学習をしてきた。本年度も音の選び方を工夫して4小節の副次的旋律をつくる活動を行っている。この題材ではまず2小節の中で音符を組み合わせるリズムをつくる活動を行い、拍の流れを感じたり音符や休符に対する理解を深めたりしていく。そしてわらべ歌や郷土の音楽を聴いたり演奏したりする中で日本の音楽には独自の音階があることに気付き、自分たちも日本の音階の中で音を組み合わせながらまとまりのある音楽をつくる活動に取り組みせ、旋律の特徴を感じ取って音楽づくりを楽しもうとする態度を育てたい。また、旋律をつなげたり友だちと掛け合いをしたりして、音楽の仕組みを生かした音楽づくりを経験させたいと考えている。

#### (2) 児童の実態 (男子15名, 女子13名, 計28名)

##### ①意識調査

○音楽は好きですか。

好き 20人 (71%)      まあまあ好き 6人 (21%)      あまり好きではない 2人 (7%)

理由 好き

- ・聴くことが好き
- ・ピアノを習っていて復習になる
- ・いろいろな歌が歌える
- ・いろいろな楽器が演奏できる
- ・わかったりできるようになるとうれしい
- ・旋律づくりも好き
- ・歌やリコーダーができる

まあまあ好き

・楽しいけれど旋律づくりなどがいや ・難しい

好きではない

・リコーダーがあまりふけない

○リズム打ちは好きですか。

好き 17人 (60%) まあまあ好き 9人 (42%) あまり好きではない 2人 (7%)

○旋律をつくることは好きですか。

好き 12人 (42%) まあまあ好き 12人 (42%) あまり好きではない 4人 (14%)

○音楽の学習で好きなことに○をつけましょう。(複数回答)

歌う 17人 リコーダー 15人 いろいろな楽器 23人 旋律づくり 10人 音楽を聴く 23人

②「日本の音楽」という言葉から知っていることを書く。(曲や楽器)

楽器 太鼓 15・笛 3・三味線 3・箏 2・草笛 2

曲 君が代 11・茶つき 9・千葉おどり 9・さくらさくら 7・ソーラン節 4・かごめかごめ 3  
ふじ山・盆踊り 2・エイサー・ずいずいずっこころばし・雪やこんこ・もみじ・とんび  
ひなまつり

③音楽のしくみの聴き取り (3種類, 2小節の旋律を教師がリコーダーで演奏)

問いと答え 23人 反復 23人 変化 24人

④リズム打ちの実態調査

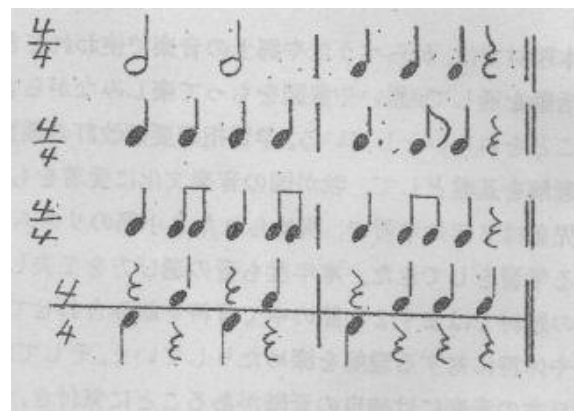
ア 正答 17人 (60%)

イ 8人 (28%)

ウ 21人 (75%)

エ 27人 (96%)

二人組でのアンサンブル



⑤読譜力・リコーダーの演奏の実態調査



階名なしでリコーダー演奏ができる 9人 (32%) 9人 (32%)

階名ありでリコーダー演奏ができる 11人 (39%) 13人 (46%)

できない 8人 (28%) 6人 (21%)

本学級の児童は音楽が好きな児童が多くいつも楽しそうに歌う。響きのある声を目指して顔の表情や姿勢を意識しようとする児童も多い。

器楽ではリコーダーに苦手意識をもっている児童が数名いる。それらの児童は指が小さく指穴をきちんと押さえきれていないものが多い。また素早く指を動かせていない。

本題材では旋律づくりを行うが、既習の単元でもリコーダーでの副次的旋律をつくる学習を行ってきた。しかし歌はすきなのに旋律づくりは興味が持てない児童もいる。旋律をつくり上げていく楽しさや達成感を味わえるよう授業構成を考えていく必要がある。

日本の音楽について知っていることとして楽器や曲名をほとんどの児童がひとつはあげることができた。運動会のダンスで「親子三代千葉おどり」や「エイサー」「ソーラン節」を多く耳にするためか、楽器も含め日本の音楽と認識している児童は多い。既習曲の中からも思い出すことができた児童もいる。日本の音楽への抵抗感はあまりないと考える。

音楽の仕組みについて違いを聴き取ることはほとんどの児童ができている。自分で旋律をつくる時にも活用できるようにするために、教師が適切な言葉かけをしていくことが大切と考える。

リズム打ちでは、4分音符はほぼ全員、8分音符、2分音符は半分以上の児童が拍を感じ取って打つことができた。しかし付点4分音符と8分音符の組合せはほとんどの児童が打つことができなかった。この組み合わせは3年時に歌唱では多く出てきたが、リコーダーでの学習の中では演奏する機会が少なかった。旋律として覚えることが多く、音符としての理解は低い。そこで常時活動として4/4拍子2小節のリズム打ちを取り入れ、音符の長さを理解できるようにし、基礎・基本の定着を図っていきたい。

リコーダーの演奏では、レの後ろ穴を離すところやミで右手を使うところで指が自在に動かない児童がいる。また階名がふっていないと音がわからない児童も67%と多い。本題材では旋律をつくって演奏することに重点をおくためカタカナで階名を書くことにする。記譜は理解できている児童のみ挑戦させたい。

### (3) 指導観

児童は3年の学習で「神田囃子」を鑑賞し、お祭りのときに演奏されていることや用いられている楽器について学習してきた。本単元のはじめにもう一度鑑賞し、同じリズムが繰り返されていることや少ない音の組合せで旋律ができていることに気付かせたい。

次に日本の旋律の特徴を感じとらせたい。そこで低学年より親しんできた「ひらいたひらいた」や「かごめかごめ」などの遊び歌やわらべ歌を取り上げる。児童はこれらの曲が前単元で学習してきた「風のメロディー」などとは違うことを感覚的に感じている。わらべ歌は5音からなる日本の音階を用いてつくられており、懐かしい感じがするようである。また先月の運動会で踊った「親子三代千葉おどり」も取り上げる。本校では毎年運動会の全校ダンスとして楽しんでおり、今年はこの曲に締め太鼓でリズムをつけて歌う活動も授業の導入におこなってきた。この「親子三代千葉おどり」も5音できている。そのことにも触れ日本の音階をつかって旋律をつくるきっかけにしていく。また、これらの曲がやさしいリズムからなっていることやくりかえしが多くつかわれていることに気づかせていきたい。

旋律づくりでは、はじめに4/4拍子2小節8拍のリズムからつくっていく。常時活動として取り入れているリズム打ち（リズムカレンダー）と「親子三代千葉おどり」でたたいた締め太鼓のリズムも同じ2小節8拍分である。これまでは教師の提示したリズムを手拍子してきた。本題材で初めて自分で音符を組み合わせリズムをつくる。そこで音符の正しい長さを感じ取りながら自分が演奏できるリズムをつくれるよう、音符の長さ別に2色の付箋を使い、ワークシートに貼りながら組み合わせを考えていく。つくったリズムはリコーダーのラやドの音で演奏する。使用する付箋の音符カードは前単元で学習したときにつくったものを使う。

次につくったリズムに音をあてはめ旋律をつくる段階では、わらべ歌の階名唱やリコーダーの演奏時にそれらの曲の音階を掲示物で指さすことで、旋律をつくる際には近い音どうしの方が演奏するのにも容易なことで覚えやすいことを感じとらせ自分の旋律づくりに生かせるようにしたい。

旋律ができたら音楽の仕組みを生かしてつなげる場を設定する。複数つくることのできた児童には問いと答えや反復を用いてつなげたり、自分の旋律と友だちの旋律で掛け合いをしたりと試す時間を多く取る。試行錯誤したり発表を聴いたりすることで音楽の仕組みを生かしてつくる方法を広げ、思いや意図をもって音を音楽へと構成する力を高められるようにしたいと考える。

### 3 題材の目標


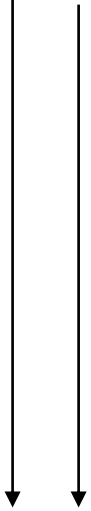
- 日本の旋律の特徴に興味・関心をもち、それらを活用して音楽づくりをしようとしている。
- 日本の旋律の特徴を感じ取り、簡単な旋律をつくる。

### 4 題材の評価規準

ア 音楽への関心・意欲・態度	イ 音楽表現の創意工夫	ウ 音楽表現の技能
<ul style="list-style-type: none"> <li>・お囃子に関心をもち、音符カードを使って自分のリズムをつくる学習に進んで取り組もうとしている。</li> <li>・音楽の仕組みを生かし、どのような順でつないで音を音楽に構成していくかに興味・関心をもち、思いや意図をもって音楽をつくる学習に取り組もうとしている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・リズムの面白さを感じ取りながら音を音楽にしていくことを工夫している。</li> <li>・日本の音階の特徴を聴き取り、それらの働きが生み出すよさや面白さなどを感じ取りながら、音楽の仕組みを生かし、音を音楽に構成するための試行錯誤をして、どのように音楽をつくるかについて自分の考えや願い、意図をもってしている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「問いと答え」や「反復」の音楽の仕組みを生かし、音を音楽に構成している。</li> </ul>

### 5 題材の指導計画及び評価計画 (3時間扱い)

時	○学習内容 ・主な学習活動	学習活動における具体的評価規準	[共通事項]
1	<ul style="list-style-type: none"> <li>○お囃子や祭りの音楽について復習し、楽器や旋律の特徴を確認する。</li> <li>・「神田囃子」、「親子三代千葉おどり」を鑑賞し、使われている楽器や繰り返されるリズム、旋律に気付く。</li> <li>○音符カードを使って、4/4拍子2小節のリズムをつくる。</li> <li>・5種類の音符が書いてある付箋を組み合わせ、2小節のリズムをつくる。</li> <li>・つくったリズムをリコーダーの「ラ」や「ド」の音で演奏する。</li> <li>・ Rond形式で発表する。</li> </ul>	<p>ア お囃子に関心をもち、音符カードを使って自分のリズムをつくる学習に進んで取り組もうとしている。</p> <p>イ リズムの面白さを感じ取りながら音を音楽にしていくことを工夫している。</p>	<p>音色・旋律</p> <p style="text-align: center;">↓</p> <p>リズム 拍の流れ</p> <p style="text-align: center;">↓</p>

<p>2 本時</p>	<p>○郷土の音楽やわらべ歌を歌い、日本の音階でつくられていることを感じとる。          ・「親子三代千葉おどり」やわらべ歌の「ひらいたひらいた」を階名で歌い、使われている音の種類に気付く。          ○つくったリズムと5つの音を使って旋律をつくる。          ・つくったリズムを使って、リコーダーで「ミ・ソ・ラ・ド・レ」の中から音を確かめながら、自分の旋律をつくる。          ○互いの旋律を聴き合い、問いと答えの表現を工夫する。          ・縮太鼓で打つ拍に合わせて、二人ずつ順番につくった旋律を演奏する。</p>	<p>イ 日本の音階の特徴を聴き取り、それらの働きが生み出すよさや面白さなどを感じ取りながら、音楽の仕組みを生かし、音を音楽に構成するための試行錯誤をして、どのように音楽をつくるかについて自分の考えや願い、意図をもっている。</p>	<p>旋律・音階</p> <p>問いと答え</p> 
<p>3</p>	<p>○グループ内で旋律をつなげる。          ・友だちとロンド形式や反復をして旋律をつなげてみる。          ・一人で問いと答えの音楽の仕組みをつかってみる。          ○グループでつくった旋律を発表し合う。          ・簡単なリズムの縮太鼓を伴奏に、旋律をつなげて演奏する。</p>	<p>ア 音楽の仕組みを生かし、どのような順でつないで音を音楽に構成していくかに興味・関心をもち、思いや意図をもって音楽をつくる学習に進んで取り組もうとしている。</p> <p>ウ 「問いと答え」や「反復」の音楽の仕組みを生かし、音を音楽に構成している。</p>	<p>反復</p> 

## 6 本時の学習 (2/3)

### (1) 本時の目標

つくったリズムに日本の音階で旋律をつくり演奏する。

### (2) 視点とのかかわり

《視点2》思いや意図を表現する力を育むために

#### ○ワークシートの工夫

2小節8拍のリズムをつくる際、音の長さで色を変えた付箋を使い、音符を書くカードとして使用する。カードは前単元で音符の学習をした際につくった音符パレットのものを使う。付箋のため並び変えが容易にでき、児童が試行錯誤しながら自分のリズムをつくることのできるようする。ワークシートに付箋のカードを貼り、その下にカタカナで階名を書く欄を設ける。同じリズムで何パターンもつくることのできるようしておき、自分で問いと答えの音楽をつくることのできるようにする。記譜に挑戦できる児童のために五線もつけておく。


#### ○常時活動にリズム遊びを取り入れる。

自分の思いを表現するための基礎・基本の力を育成する。そのために4/4拍子8拍のリズム打ちや3音での即興の節回しを常時活動に取り入れる。本時では即興で児童がつくったリズムを全員で模倣する活動を行う。

○日本の音階がわかる五線譜や拡大譜

使われている音がわかるよう音階を掲示し特徴がわかるようにしていく。たくさんの音の種類を使うことがよい音楽と考える児童も多いと予想されるので、わらべ歌や祭りの音楽も少ない音の組合せでできていることを目で見えて確認できるようにし、自分の音楽にも生かせるようにしておく。

(3) 展開

学習内容と学習活動	○ 教師のかかわり 学習活動における 具体的評価規準 ☆【共通事項】	備考
<p>1. リズムカレンダーで拍の流れに乗ってリズム打ちをする。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・4/4拍子8拍の一部分のリズムを即興でつくり、全員で模倣する。</li> </ul> <p>2. 学習課題を把握する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・前時に各自が2小節のリズムをつかったことと、本時は旋律をつくることを確認する。</li> </ul> <p>3. 「親子三代千葉おどり」やわらべ歌を歌い、日本の音階でつくられていることを理解する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「親子三代千葉おどり」の冒頭を階名で歌い、5音でつくられていたことを確認する。</li> <li>・「ひらいたひらいた」を階名で歌い、使われている音に気付く。</li> <li>・「かごめかごめ」をリコーダーで演奏する。</li> </ul> <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ラの音が多い。</li> <li>・わらべうたはシの音で千葉おどりはドの音が入っている。</li> </ul> </div> <ul style="list-style-type: none"> <li>・日本の音階は5音の中でも音の組合せがいろいろあることを知る。</li> </ul> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0; text-align: center;"> <p>日本風オリジナルせんりつをつくらう</p> </div>	<p>○教師が手本を示した後、数名の児童が1小節ずつ即興演奏し全員で模倣する。太鼓のリズムー児童1ー全員～の順で行う。</p> <p>○拍の流れに乗って自分のリズムを手拍子で演奏してみる。</p> <p>○黒板やテレビに階名つきの楽譜を提示し、全員がすぐに歌ったり演奏したりできるようにする。</p> <p>○1曲ごとに使われた階名が書いてある拡大譜を提示し児童が気付くことができるようにする。</p> <div style="text-align: center;">  </div> <p>○最初と最後の音がラであることを確認する。</p> <p>○5音の組み合わせにもいろいろあるが、本時は「ミソラドレ」でつくることを話す。</p>	<p>リズムボックス</p> <p>テレビ</p> <p>拡大譜</p>
<p>3. つくったリズムと5つの音を使って、旋律をつくる。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・前時につくったリズムを使い、リコーダーで音をかめながら、自分の旋律をつくる。</li> </ul>	<p>○ワークシートを拡大したものを掲示し、書き方が理解できるようにする。</p> <p>○各わらべ歌も5音全部を使っているわけではないことを確認し、2～4音がつくりやすいことを助言する。</p>	<p>ワークシート</p>

<ul style="list-style-type: none"> <li>・自分の旋律を練習する。</li> </ul> <p>4. つくった旋律をグループ内で発表する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 2人一組になり，ABあるいはABABと交互に旋律を演奏する。</li> <li>・ 問いと答えの旋律をつくった児童は自分の旋律を発表する。</li> <li>・ 拍の流れを感じながらリコーダーで旋律を演奏する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○離れた音ばかりでつくっている児童には、「かごめかごめ」の音階を指さしながら教師が階名を歌い，近い音で進行していることに気付かせる。</li> <li>○つくることが困難な児童には，「ラド」の2音でつくるよう助言する。</li> <li>○演奏しにくい場合はリズムや音の組み合わせを見直すよう助言する。</li> <li>○リズムボックスで速さを示し（♩=70）拍に乗って自分の旋律を練習するよう指示する。</li> </ul> <p style="text-align: center;">☆〔旋律・音階〕</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○1グループ4～5人内で2人ずつ発表することを伝える。他の2～3人はどの音が使われているか聴くように指示する。</li> <li>○リズムボックスの締太鼓で4拍子の拍を打ち，拍の流れにのって演奏するよう指示する。</li> </ul> <p style="text-align: center;">☆〔問いと答え〕</p> <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px;"> <p>イ 日本の音階の特徴を聴き取り，それらの働きが生み出すよさや面白さを感じ取りながら，音楽の仕組みを生かし，音を音楽に構成するための試行錯誤をしてどのように音楽をつくるかについて思いや意図をもっている。</p> <p>（観察・演奏聴取・ワークシート）</p> </div>	<p>当たり鉦</p>
---	---	-------------